



mandom / Human & Freedom

第93期  
中間

# 株主通信

2009年4月1日～2009年9月30日まで

LÚCIDO

株式会社マダム  
証券コード: 4917

基本理念

美と健康を通じ、  
快適な生活にお役立ちする

経営理念

生活者発・生活者着  
全員参画経営  
社会との共存共栄

企業行動指針

1. 価値向上考働
2. 自己実現考働
3. 収益性向上考働
4. 倫理的考働
5. 取組先協働考働
6. 環境保全考働
7. 社会貢献考働

代表取締役 社長執行役員

にしむら もとのぶ  
西村 元延

株主の皆さまへ	02
事業推進の概況	05
財務諸表	09
株主還元の基本方針	12
アンケート集計結果のご報告	13
株式の状況&会社概要	14

## 株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。  
また、日頃の温かいご理解とご支援に厚くお礼申し上げます。

第92期(2009年3月期)よりスタートした第9次中期3ヵ年経営計画(MP-9)は、当93期(2010年3月期)で2年目を迎えております。当社グループでは、MP-9を「新たな成長領域づくりにより、今後の持続的な成長を軌道に乗せるための中期経営計画」と位置づけ、戦略テーマとして「コア事業である男性グルーミング事業の安定的な成長」「新たな成長領域として位置づける女性分野の成長路線づくり」「成長エンジンとして位置づける海外事業の継続的な拡大」を掲げ、事業を推進しております。

当期におきましては、世界的な不況による国内化粧品市場の低迷や海外市場の成長鈍化、アジア通貨安などの厳しい環境の中、上記テーマに取り組み持続的な成長に向け推進するとともに、厳しい環境に耐える体制づくりとしてコストの抜本的な見直しに取り組んでおります。

それでは、第93期第2四半期(2009年4月1日～2009年9月30日)の業績につきましてご報告申し上げます。

## 第93期(2010年3月期)第2四半期累計業績の概況

## ■ 連結売上高について

連結売上高 **294億37百万円**(前期比 4.6%減)

## 国内は増収となるものの

## 海外の為替のマイナス影響により減収

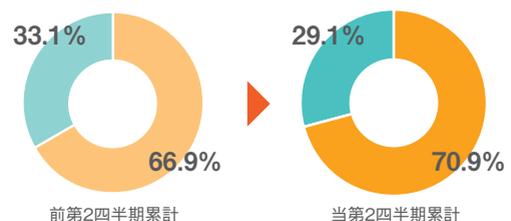
国内では、最重要ブランドである「ギャツビー」が夏シーズン品をはじめとするフェイス&ボディカテゴリーの牽引により好調に推移したことに加え、女性コスメティック事業が大幅に伸長したことにより、国内化粧品市場の低迷による既存品の伸び悩みをカバーし、国内売上高は前期比1.2%の増収となりました。

海外では、順調に売上を伸ばし、現地通貨ベースでは一部の地域を除いてニケタ成長となりましたが、為替のマイナス影響を受けたことで前期比16.4%の減収となりました。

これにより、連結売上高は前期よりも14億33百万円減収の294億37百万円(前期比4.6%減)となりました。

この結果、当第2四半期における連結売上高に占める海外の売上高比率は、前期よりも4.0ポイント下がり29.1%となりました。

## 連結地域別売上高 同期構成比推移



## 株主の皆さまへ

### ■ 連結利益について

連結営業利益	41億60百万円 (前期比 7.6%減)
連結経常利益	44億18百万円 (同 5.0%減)
連結四半期純利益	24億27百万円 (同 1.5%減)

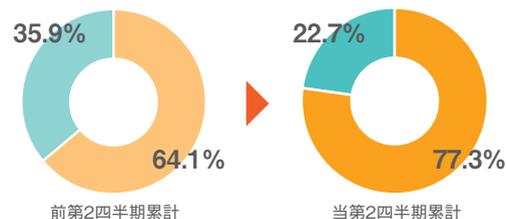
原価、販売費を低減させたものの、  
減収に伴う利益の減額や  
海外の為替のマイナス影響により減益

国内における返品低減、マーケティング活動の効率化による販売費の抑制および海外における原材料コストの低減を図ったものの、減収にともなう利益の減額や為替の影響を受けたことで、連結営業利益は前期より3億42百万円減益の41億60百万円(前期比7.6%減)となり、連結経常利益は前期より2億31百万円減益の44億18百万円(前期比5.0%減)、連結四半期純利益は前期より36百万円減益の24億27百万円(前期比1.5%減)となりました。

以上の通り、減収減益ではありますが、売上高、段階利益ともに当初計画を達成することができました。

なお、当期の中間配当金につきましては、予定通り1株あたり30円とさせていただきますことをあわせてご報告申し上げます。

### 連結地域別営業利益 同期構成比推移



### 第93期(2010年3月期) 通期業績の見通し

当第2四半期以降、世界経済に回復の兆しが見え始めてはいるものの、先行き不透明な状況が続くと考えられます。また、化粧品業界においても、消費者マインドの冷え込みの影響などにより、さらなる競争激化が予想されます。

### ■ 連結売上高見通し

連結売上高 **537億円** (前期比 2.7%減)

### 売上高



### 営業利益



### 経常利益



## 順調に推移する

男性グルーミング事業・女性コスメティック事業・  
海外事業を継続強化

国内においては化粧品市場のさらなる低迷と男性化粧品における競合環境の激化が見込まれます。このような中、最重点ブランドである「ギャツビー」において商品・マーケティング両面での対応を強化するとともに、女性コスメティック事業において商品拡充を進めてまいります。

また、海外においては為替のマイナス影響が大きく見込まれるものの、各国マーケットに対する強化を図ってまいります。

これらの取り組みにより、連結売上高は当初計画どおりの537億円(前期比2.7%減)を見込んでおります。

## ■ 連結利益見通し

連結営業利益	<b>51億50百万円</b> (前期比 4.5%増)
連結経常利益	<b>53億円</b> (同 2.4%増)
連結当期純利益	<b>28億円</b> (同 7.0%減) <sup>※</sup>

※ 前期における税制改正にともなう当期純利益増額の影響により減益となります。

国内、海外で市場環境の変化に対応するため、  
マーケティング強化を図る

連結営業利益は、国内化粧品市場の競争激化に対応するためのマーケティング強化に加え、海外において好調に推移している女性コスメティック事業への先行投資を実施しますが、マーケティング費用の効率化に加え、コストの抜本的な見直しにより、当初計画どおり51億50百万円(前期比4.5%増)と増益を見込んでおります。なお、連結営業利益、連結経常利益、連結当期純利益ともに期首計画通りを見込んでおります。

このような状況ではありますが、当期の配当金につきましては、中間30円・期末30円の年間配当金60円を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2009年12月



## 四半期(当期)純利益



## 自己資本当期純利益率 (ROE)



## 1株当たり四半期(当期)純利益 (EPS)



## 男性グルーミング事業

男性の日常の身だしなみやおしゃれ全般に使用する商品群で、安定成長を目指すマダムグループのコア事業です。



グループのコア事業である男性グルーミング事業のグループ売上高は前期比1.8%の減収となりました。

### 【国内】

国内では、フェイス&ボディケアカテゴリーの好調な推移により「ギャツビー」が伸長し、増収となりました。

「ギャツビー」は、商品面では、ヘアスタイリングにおいて、主力剤型であるヘアワックスの周辺カテゴリーの強化として「**パーフェクトクリアシャンプー**」を発売しました。



ヘアワックスをしっかりと洗い落とす「ギャツビー パーフェクトクリアシャンプー」

また、フェイス&ボディケアにおいては、フェイスクリアシリーズのリニューアルを実施しました。「**ギャツビー パーフェクトスクラブ**」が発売1ヶ月で、男性用洗顔料単品売上NO.1となるなど、好調にシェアを伸ばしました。



「ギャツビー フェイスクリアシリーズ」

マーケティング面では、フェイス&ボディケアにおいて、引き続きイメージキャラクターに**木村拓哉さん**を起用したCM投下や、CMと連動した店頭における積極的なプロモーション展開、また**ターゲットにあわせたイベントの実施等**により、市場が拡大しているフェイスクリアカテゴリーでの競争力強化と、成長有望カテゴリーであるボディペーパーの認知拡大と使用率向上に取り組みました。



引き続き「木村拓哉」さんを起用



CMに連動した店頭展開



ユーザーである学生たちが発信するWeb動画プロモーション「ギャツビー学校へGO!!」を実施

「ルシード」は、新たにターゲットを今後市場の拡大が期待できるアラフォーと呼ばれる**40代前後の世代にフォーカス**し、ヘアワックスシリーズとスキんケアシリーズを発売しました。



企業で働く男性をモデルにアラフォー世代の悩みにアプローチ



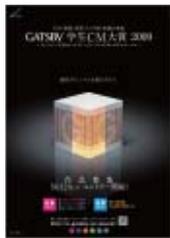
アラフォー男性の初期老化に対応した商品を展開

### 【海外】

海外では、「ギャツビー」を中心に現地通貨ベースでは好調に売上を伸ばしているものの、為替のマイナス影響により減収となりました。

「ギャツビー」は、インドネシアにおいてワックスシリーズをリニューアルするなど、各国の生活者ウォンツを満たす商品展開を行っています。

また、「ギャツビー学生CM大賞」や「ギャツビースタylingダンスコンテスト」といった国境を越えた生活者参加型イベントを各国で開催するなど、「ギャツビー」を若者文化の一つとして日本をはじめアジア各国への浸透を深めるための取り組みを行っています。



アジア7つの国と地域で「ギャツビースタylingダンスコンテスト」を開催



日本・韓国・香港で「ギャツビー学生CM大賞」を開催



## 女性コスメタリー事業

ヘアスタイリングやフェイス&ボディケアなど、日常の身だしなみやおしゃれに使用する商品群で、新たな成長領域として成長路線作りを目指す事業です。



女性コスメタリー事業のグループ売上高は、前期比21.9%の減収となりました。

### 【国内】

国内では、「ルシードエル」が前期実施したスタイリングシリーズ全面リニューアルの反動により、減収となりました。「ルシードエル」は、より思い通りのスタイリングに仕上げるための「スタイリング下地」を新しく提案した「ベースデザインングシリーズ」を発売し、商品ラインナップの拡充を行いました。



「ルシードエル  
ベースデザインングシリーズ」

### 【海外】

海外では、フレグランスシリーズ「ピュセル」が好調に推移したものの、為替のマイナス影響により減収となりました。

「ピュセル」は、新シリーズ「フォーシーズンズ」を中心に、CM投下や積極的な店頭展開などにより、更なる認知拡大に取り組みました。



「ピュセル フォーシーズンズ」



CM投下による認知拡大

### 「男性特有の“肌のギラつき”の発生メカニズムを解明」

男性特有の顔面における「ギラつき」は、中年男性の肌悩みとして常に上位に挙げられており、見た目の好感度においても、特に女性から低くみられる要因となっています。当社は、幅広い年代層の男性の顔面皮膚に関する評価測定データなどにより、「ギラつき」の発生メカニズムを解明し、この発生が男性顔肌の初期老化のサインであり、スキンケアによる改善が可能であるとつぎとめました。この研究成果は、「ルシード」のスキンケアシリーズなどの商品開発に活かされています。この研究成果についての詳しい内容は、当社ウェブサイトをご覧ください。

詳しくはこちら「ニュースリリース」

<http://www.mandom.co.jp/release/2009/src/2009081801.pdf>

## 女性コスメティック事業

メイクアップやスキンケアなど女性のビューティーライフに彩りを添える商品群で、新たな成長領域として成長路線作りを目指す事業です。



女性コスメティック事業のグループ売上高は、前期比26.4%の増収となりました。

### 【国内】

国内では、商品ラインナップの拡充と新しいカテゴリーへの参入に取り組んだことにより好調に推移し、大幅増収となりました。

高保湿スキンケアシリーズ「**バリアリペア**」のリニューアルを実施し、さらにうるおいの肌質感にこだわったアイテムの強化と商品ラインナップの拡充を行いました。

またメイクアップシリーズ「**パニティフリーク**」からリップグロスを発売し、新たな剤型の展開によるメイクアップカテゴリーの商品ラインナップの拡充を行いました。



15種の美容保湿成分を配合した「パニティフリーク エッセンスグロス」

### 【海外】

海外では、スキンケア・メイクブランド「**ピクシー**」が好調に推移し、増収となりました。

「**ピクシー**」は、スキンケアラインのリニューアルの実施にともない、重点強化を図っているインドネシアにおいて、CMの放映や各地でイベントを行うなど生活者との接点拡大に取り組んでいます。



「ピクシー UVホワイトニングシリーズ・アクネブライトシリーズ」



主要7都市でのイベント開催

### 角質層のすみずみまで 瞬時にうるおいを届ける高密度処方

「**バリアリペア ベビーモイストレーション**」では、エモリエント成分をマイクロエマルジョン製法により微細粒子として高密度化する技術が活かされています。これにより、角質層のすみずみまで瞬時にしっかりとうるおいが浸透し、使ったすぐのしっとり感を実現しました。



「バリアリペア」リニューアル

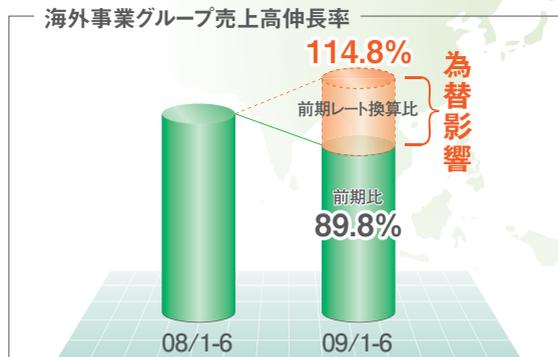
## 海外事業

今後も高い成長が望める海外事業は、引き続きグループ経営の成長エンジンとして位置づけ、前中期経営計画にて戦略展開してきた累積効果を活かし、各国の市場環境に適応した展開強化を行っています。

為替の影響で減収となりましたが、現地通貨ベースでは継続して売上を伸ばしており、好調を維持しています。

海外事業は、展開しているアジア各国での現地通貨ベースでの実績は概ね好調に推移したものの、アジア通貨下落の影響が大きく、円換算ベースで減収となりました。

展開各国では、自国の特性に合わせた商品展開やマーケティング展開を実施することで、一部の地域を除いて好調に伸長し、海外グループ売上高全体で前期レート換算比114.8%と二ケタ成長（現地通貨ベース）を維持しています。



### インドネシア

海外重要拠点であるインドネシアでは、インドネシア国内で男性化粧品が堅調に推移したことと、女性コスメティック分野で「ピクシー」が好調だったこともあり、現地通貨ベースで二ケタ成長をしています。

IR  
インフォメーション

### 【設備投資の実施について】

当社は、2010年3月完成予定で福崎工場のペーパー商材の生産設備を増設することいたしました。投資金額は1,030百万円です。

近年、男性の清潔意識・美容意識の高まりとともに、男性化粧品市場においてフェイス&ボディケア商品の市場が拡大傾向にあります。

中でもフェイシャルペーパー・ボディペーパー等のペーパー商材の伸びは著しく、生産量も年々増加しています。

また、これまでペーパー商材はシーズン品の色合いの高い商品で需要も夏場に偏りがありましたが、男性のケア意識の高まりとともに冬場の需要も拡大傾向にあり、年間を通じた生産を見込める規模へと成長してきました。

そこで、今回当社福崎工場にてペーパーラインの増設を行い、増え続ける生産量に対応して内製化比率を高めることでコスト競争力を向上させるとともに、チャンスロスの低減を目指します。

今回のラインの増設により、2008年3月期と比較して約2倍の生産増強が可能となります。

なお、本件により2010年3月期業績に与える影響は軽微です。

mandom

## 財務諸表(連結)

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### POINT ① 「流動資産」

資金を短期金融資産で運用したことにより、有価証券が増加しました。

### POINT ② 「投資その他の資産」

投資有価証券が、保有有価証券の時価の上昇により増加しました。

### POINT ③ 「流動負債」

未払法人税が増加しました。

### POINT ④ 「評価・換算差額等」

保有有価証券の時価の上昇により其他有価証券評価差額金が増加し、アジア通貨の回復<sup>※</sup>にともない為替換算調整勘定が増加しました。

<sup>※</sup> 貸借対照表と損益計算書では、海外通貨の換算レートが異なります。

### 連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期 2009年9月30日現在	前 期 2009年3月31日現在	前第2四半期 2008年9月30日現在
(資産の部)			
流動資産	32,979	29,319	30,362
固定資産	20,446	19,758	24,609
有形固定資産	12,018	11,484	15,268
無形固定資産	656	739	770
投資その他の資産	7,770	7,534	8,569
資産合計	53,425	49,078	54,971
(負債の部)			
流動負債	6,639	5,148	6,976
固定負債	1,736	1,550	1,630
負債合計	8,376	6,698	8,607
(純資産の部)			
株主資本	46,572	45,539	45,944
資本金	11,394	11,394	11,394
資本剰余金	11,235	11,235	11,235
利益剰余金	25,789	23,865	24,269
自己株式	△ 1,847	△ 956	△ 955
評価・換算差額等	△ 4,790	△ 6,007	△ 3,337
少数株主持分	3,267	2,847	3,757
純資産合計	45,049	42,379	46,363
負債純資産合計	53,425	49,078	54,971

## 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
売上高	29,437	30,870
売上原価	13,024	13,736
売上総利益	16,412	17,134
販売費及び一般管理費	12,252	12,631
営業利益	4,160	4,503
営業外収益	338	231
営業外費用	80	84
経常利益	4,418	4,650
特別利益	7	16
特別損失	25	23
税金等調整前四半期純利益	4,400	4,643
法人税等	1,718	1,840
少数株主利益	254	338
四半期純利益	2,427	2,463

## POINT 5 「売上高」

国内・海外ともに現地通貨建では増収だったものの、アジアの通貨安の影響により減収となりました。

## POINT 6 「営業利益」

コスト削減により、販売費及び一般管理費が減少したものの、減収を補いきれず減益となりました。

## POINT 7 「投資活動によるキャッシュ・フロー」

投資有価証券の償還・売却が減少しました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,897	3,005
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,811	△ 169
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,585	△ 1,078
現金及び現金同等物に係る換算差額	126	△ 206
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△ 373	1,552
現金及び現金同等物の期首残高	9,235	9,791
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△ 41	69
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,820	11,412

## 自己株式の取得

資本効率の向上および今後の経営環境変化に対応した機動的な資本政策の遂行を図るため、自己株式の取得を行いました。

- 取得した株式総数 404,800株
- 取得価額の総額 889,331,000円
- 取得期間 2009年5月19日～7月24日

## 【財務諸表への影響】

- ① 貸借対照表の「純資産の部」の「自己株式」が889百万円増加(マイナス表示)しました。
- ② キャッシュ・フロー計算書の「財務活動によるキャッシュ・フロー」が自己株式の取得に889百万円使用したことにより、支払額が増加しました。

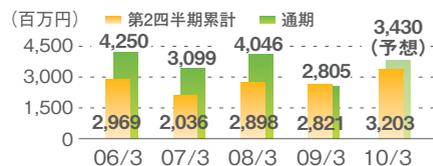
## 財務諸表(単体)

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 売上高



### 営業利益



### 経常利益



### 四半期(当期)純利益



### 貸借対照表(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当第2四半期 2009年9月30日現在	前期 2009年3月31日現在	前第2四半期 2008年9月30日現在
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	23,816	21,079	19,647
固定資産	23,846	23,790	28,132
有形固定資産	8,722	8,703	11,466
無形固定資産	292	344	295
投資その他の資産	14,831	14,742	16,369
資産合計	47,662	44,870	47,780
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	5,220	4,035	5,501
固定負債	1,348	1,222	1,206
負債合計	6,568	5,258	6,707
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本	41,225	40,243	41,305
資本金	11,394	11,394	11,394
資本剰余金	11,235	11,235	11,235
利益剰余金	20,442	18,570	19,630
自己株式	△ 1,847	△ 956	△ 955
評価・換算差額等	△ 131	△ 630	△ 233
純資産合計	41,094	39,612	41,072
負債純資産合計	47,662	44,870	47,780

### 損益計算書(要旨)

(単位: 百万円)

科目	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
売上高	21,470	21,297
売上原価	9,393	9,332
売上総利益	12,077	11,964
販売費及び一般管理費	8,873	9,143
営業利益	3,203	2,821
営業外収益	616	840
営業外費用	35	69
経常利益	3,784	3,592
特別利益	1	8
特別損失	25	22
税引前四半期純利益	3,760	3,578
法人税等	1,412	1,280
四半期純利益	2,347	2,297

## 株主還元の基本方針

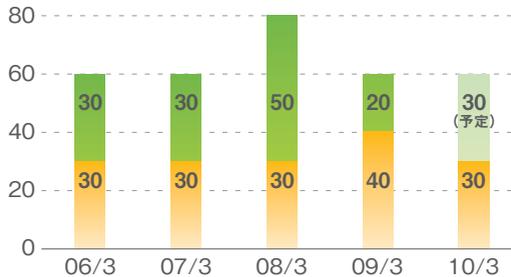
### 》》 配当に関して

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要政策として位置付けており、中長期的な事業拡大、新規事業開拓および企業リスク対応のための内部留保に配慮しつつ、配当金による株主還元を優先的に実施することを基本方針としており、連結ベースでの配当性向40%以上を目指しています。

なお、当期の中間配当金は1株あたり30円とさせていただきます。

### 配当金

(円) ■ 中間 ■ 期末



### 》》 株主優待に関して

当社は、株主の皆さまに対する利益還元の一環として、株主優待を行っております。100株以上の株式を所有(3月31日現在)の皆さまに、年1回5,000円相当の当社製品詰め合わせを、6月初旬にお届けしております。優待商品は、株主の皆さまからのご要望・市場での動向を踏まえ、新製品を中心に当社のお奨めする商品を選定しております。株主の皆さまに、商品をお使いいただき、マンダムをより身近に感じていただきたいと思います。

2009年実施  
株主優待  
詰め合わせ



### ご参考

#### 配当性向



#### 配当性向とは

純利益に基づいた株主還元の指標であり、純利益額によって配当金の変動するため、この指標を目標値に設定した場合、高い利益が出れば高い配当が期待できます。

※1 東証1部上場企業(無配企業を含む)の化学業種平均  
(各年は3月末日現在)  
出所:東京証券取引所「短信集計結果」

#### 配当利回り



#### 配当利回りとは

購入した株価に対して受け取る配当金の割合を示す指標ですが配当金額や購入した株価により変動します。

※2 東証一部上場企業(無配企業を含む)の化学業種平均  
(各年3月末日現在 ただし、10/3期のみ9月末日現在の株価にて算出)  
出所:東京証券取引所「東証統計月報」

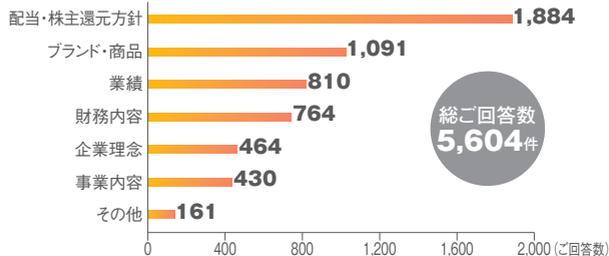
## アンケート集計結果のご報告



### 「株主の皆さまへのアンケート」に、ご協力ありがとうございました。

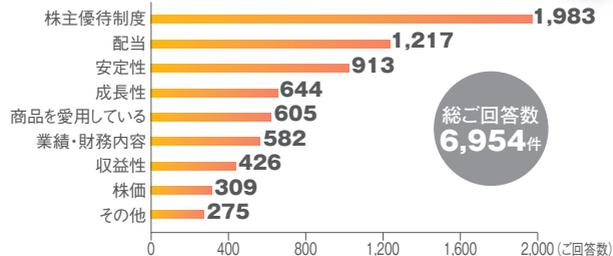
今年6月発行の株主通信に添付いたしました「株主さまへのアンケート」にご回答いただき、誠にありがとうございます。  
ご回答いただきましたアンケート結果につきまして、ご報告申し上げます。

#### ■ 当社の取り組みで評価されている点 (複数回答)



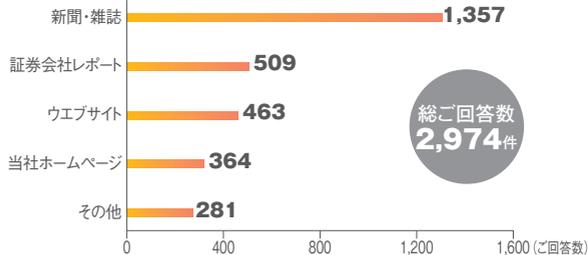
【配当・株主還元方針】への取り組みに高い評価をいただいております。今後も利益還元を経営の重要政策として位置づけてまいります。

#### ■ 当社の株式の購入理由 (複数回答)



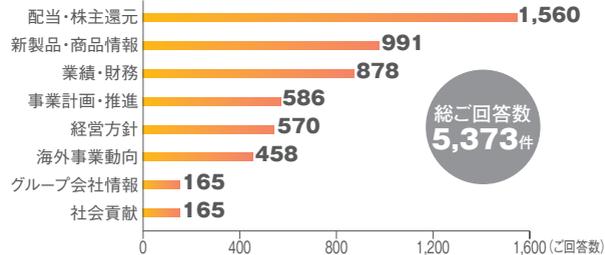
購入理由には、【株主優待制度】【配当】や【安定性】【成長性】などが上位となっています。評価いただける企業の持続的な成長を目指してまいります。

#### ■ 当社の株式を購入する際の情報の入手先 (複数回答)



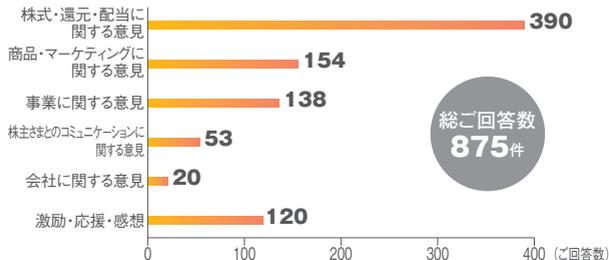
情報の入手先は、【新聞・雑誌】が上位となっています。ホームページやウェブサイトなどの関心も高まっており、幅広い媒体での情報提供を心がけてまいります。

#### ■ 株主通信において充実して欲しい情報 (複数回答)



株主通信では、【配当・株主還元方針】への回答が上位となっています。様々な情報をわかりやすく掲載し、より充実した株主通信として株主さまとのコミュニケーションを図ってまいります。

#### ■ その他、ご意見やご要望



多くの株主さまから事業や商品、株主還元などに関する貴重なご意見、ご要望をいただいております。

お寄せいただいたご意見は今後の企業活動の参考とさせていただきます。さらなる企業価値の向上を目指して邁進してまいります。なお、当社の詳しいIR情報や企業活動に関する情報は、ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

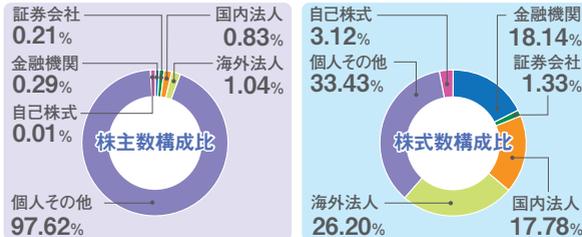
<http://www.mandom.co.jp/>

## 株式の状況

## ■ 株式の状況

[2009年9月30日現在]

- 発行可能株式総数 81,969,700 株
- 発行済株式総数 24,134,606 株
- 株主数 15,835 名
- 株式分布状況



## ■ 大株主

[2009年9月30日現在]

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	所有株式数の比率 (%)
(財)西村留学生奨学財団	1,800	7.46
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,122	4.65
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	1,075	4.46
西村 元延	1,005	4.16
日本ラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	988	4.10
西村 輝久	801	3.32
(株)マンダム	753	3.12
マンダム従業員持株会	717	2.97
BNP PARIBAS SEC SVC LONDON/JAS/ABERDEEN INVESTMENT FUNDS ICVC/AGENCY LENDING	575	2.38
HAYAT	320	1.33

(注)所有株式数は千株未満で切り捨てています。

## ■ 株価推移



## 会社概要

## ■ 会社概要

[2009年9月30日現在]

- 社名 株式会社マンダム
- 本社 大阪市中央区十二軒町5番12号
- 設立 1927年12月23日
- 資本金 11,394,817,459円
- 従業員 537名(連結2,288名)
- 事業内容 化粧品、香水の製造および販売  
医薬部外品の製造および販売
- HPアドレス <http://www.mandom.co.jp/>

株式会社マンダムはISO14001(福岡工場)とISO9001(営業部門を除く・福岡工場)を認証取得しています。

※ISO9001審査登録範囲:株式会社マンダムが製造及び/又は販売する化粧品及び  
医薬部外品の設計・開発、製造及び出荷(ただし国内販売に限定。また輸入品販売を除く)

## ■ 取締役および監査役

[2009年9月30日現在]

代表取締役	社長 執行役員	西村 元延
代表取締役	副社長 執行役員	亀井 浩
取締役	専務 執行役員	西海 義勝
取締役	常務 執行役員	山田 憲治
取締役	常務 執行役員	桃田 雅好
取締役	常務 執行役員	斉藤 嘉昭
社外取締役	取締役	塚田 彊
社外取締役	取締役	田村 敏和
常勤監査役	監査役	安井 博史
社外監査役	監査役	小寺 一矢
社外監査役	監査役	高木 進

## ■ グループ会社

[2009年9月30日現在]

## ● 国内

株式会社ピアセラボ

株式会社ギノージャパン

株式会社エムビーエス ※1

## ● 海外

PT Mandom Indonesia Tbk インドネシア

Mandom Corporation (Thailand) Ltd. タイ

Mandom Philippines Corporation フィリピン

Mandom (Malaysia) Sdn. Bhd. マレーシア

Mandom Corporation (Singapore) Pte Ltd シンガポール

Mandom Taiwan Corporation 台湾

Sunwa Marketing Co., Ltd. 中国(香港) ※2

Mandom Korea Corporation 韓国

Zhongshan City Rida Fine Chemical Co., Ltd. 中国(中山)

Mandom China Corporation 中国(上海)

※1 非連結子会社

※2 持分法適用関連会社

## ■ 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
〔そのほか、必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日〕

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主さまは、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主さまは、下記の電話照会先にご連絡ください。

- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701
- 郵便物送付先 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-176-417
- 電話照会先
- ホームページアドレス <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html/>
- 公告の方法 当社のホームページに掲載します。 <<http://www.mandom.co.jp/>> ただし、事故その他のやむを得ない事由の場合は、日本経済新聞に掲載します。
- 株主優待 毎年3月31日現在の100株以上所有の株主さまに対し、5,000円相当の当社製品を6月初旬に贈呈します。
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

### 【上場株式配当等の支払いに関する通知書について】

租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律第23号)により、平成21年1月以降に当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主さま宛にお送りすることになりました(同封の「配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります)。なお、「支払通知書」は、株主さまが確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます。

### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用していなかった株主さまには、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。



マンダム

検索

<http://www.mandom.co.jp/>



お問い合わせ先

**株式会社マンダム 広報IR室**

〒540-8530 大阪市中央区十二軒町5番12号

Tel : 06-6767-5020 Fax : 06-6767-5043



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%



環境に配慮し、大豆油インキと再生紙を使用しております。

